

特別展

鈴木政吉が住んだ町

幻となつたヴァイオリンの里



平成29年9月30日(土) ~
平成30年1月21日(日)

入場無料

歴史民俗資料館

☎ (48) 1809

同時開催

企画展 「れきみんができた頃
ペーター佐藤イラスト原画展」

●期間：平成29年9月30日(土)～平成29年12月17日(日)



日本のヴァイオリン王 鈴木政吉



鈴木政吉とヴァイオリン

鈴木政吉は、1859年(安政6年)、現在の名古屋市中区宮田町に生まれました。父正春は尾張藩士でしたが、それだけで生計をたてるのは困難で、三味線作りの内職をして、家族6人を養っていました。政吉も17歳の頃から家業を継ぎ、三味線を作るようになりました。しかし、明治期の西洋第一主義の中で、和楽器の衰退を感じた政吉は1887年(明治20年)、音楽教師になれば高給が見込めると、愛知県師範学校教師、恒川鏝之助の門を叩きました。そこで、同門の甘利鉄吉が購入した「和製ヴァイオリン」を目にし、政吉は心引かれます。政吉は一夜借り受けた「和製ヴァイオリン」を徹夜で模写し、記憶を頼りに第一号ヴァイオリンを作り上げます。ここから政吉は音楽教師を目指すことを辞め、ヴァイオリン作りの道に進みます。

翌年1888年(明治21年)、家業を三味線製造からヴァイオリン製造へと変更し、会社を設立しました。政吉は、製造するだけでなく、自ら東京・大阪での販売元確保のために奮闘、海外輸出のために外遊を行いました。また明治・大正・昭和初期と国内外で催される多くの博覧会にヴァイオリンなどの製品を出品し、1900年(明治33年)のパリ万国博で銅賞を受賞しました。一時期は従業員数が1000人を超えるほどの世界的な楽器

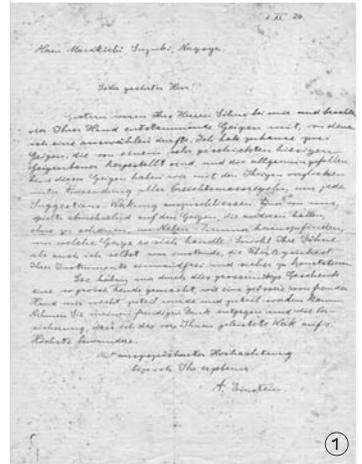
メーカーとなり、大正期には、次々と来日する外国人演奏家たちの演奏会を主催し、彼らの楽器の調整もしていました。

鈴木ヴァイオリンと大府

政吉の長男、梅雄もまたヴァイオリン製造に取り組みます。1935年(昭和10年)には、楽器生産で世界的に有名なドイツの村を参考に、大府の名高山にヴァイオリンの村をつくるべく、大府分工場を設置します。そして、その隣接地に政吉がヴァイオリンの音色を研究するための施設も設置しました。政吉は1944年(昭和19年)にその生涯を終える3日前までここで研究を続けていました。

政吉の三男、鎮一はドイツに留学し、ヴァイオリンの演奏を学びました。鎮一はドイツでの留学中に知り合った対抗性理論の提唱者アインシュタインに政吉が製作した手ノヴァイオリンを贈呈しており、その礼状と自画像をもらっています。国内では東京に帝国音楽学校を設立して後進の指導にも当たりました。また、1948年(昭和23年)には、大府市出身で世界的ヴァイオリニストである竹澤恭子さんや、国内で活躍する水野紗希さんも学んだスズキ・メソッドの基となる会を結成しています。

右の特集では、今回の特集で紹介した内容について、さらに詳しく、第一号ヴァイオリンなどの展示品とともに紹介していきますので、ぜひ足を運んでみてください。



① かつて大府にあったヴァイオリン研究所
② 第一号ヴァイオリン